

## 関空、LCC 専用第 3 ターミナル、国際線乗り入れ

新関西国際空港会社が 2016 年度中の供用開始を目指す格安航空会社(LCC)専用の第3ターミナル(T3)に国際線が乗り入れる見通しとなった。税関職員や入国審査官など、出入国の手続きに必要な人員を政府が確保する。

日経によると、新関空会社は来年度中に国際線の受け入れを含めたT3の設計案を固め、15 年度中に着工する。簡素なつくりで投資額は 100 億円程度に抑える。ジェットスターグループなど幅広いLCCの乗り入れを想定する。

これまでピーチ・アビエーション以外のLCCは使用料が高い第1ターミナルを使わざるを得なかった。アジアと日本を結ぶ路線でLCCは伸びており、T3でそうした需要を取り込む。昨年 10 月に供用を始めたLCC専用の第2ターミナルはピーチが独占的に使用。国内外 12 路線を運航中で、他のLCCが乗り入れる余地は少なかった。

(日経)11/25

[http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF25005\\_V21C13A1EB2000/](http://www.nikkei.com/article/DGXNASDF25005_V21C13A1EB2000/)

## 日航・全日空、台湾線など中国当局へ飛行計画提出、防空識別圏設定を受け

中国が尖閣諸島上空周辺を含む東シナ海に防空識別圏を設定したことを受け、日航と全日空は 25日台湾行きなどの航空機について、中国当局に飛行計画の提出を始めたことを明らかにした。

NHK ニュースによると、これまで日本と台湾の管制当局にだけ国籍や目的地などが書かれたフライトプラン＝飛行計画書を提出し、運航してきた。ところが、中国が23日設定した防空識別圏は、尖閣諸島だけでなく、沖縄や台湾に近い空域にも張り出しているため、日本と台湾を結ぶ飛行ルートもそのエリアに含まれることになった。

さらに、中国は、今回の設定に合わせて防空識別圏の中を飛行する航空機に対し、中国の外務省か航空当局にフライトプランを提出するよう通報した。こうした通報は、ICAO＝国際民間航空機関が定めたルールに基づき各国に伝えられ、航空各社に対応を求めた。このため日本航空と全日空は、台湾との間を結ぶ便について、中国の管制空域を飛行しないものの、念のため中国当局にもフライトプランの提出を始めた。

加えて、日本と東南アジアのタイやベトナム、それにシンガポールを結ぶ国際線も、積乱雲を避けるなどした場合、中国の防空識別圏の中を飛行する可能性があるため、天候によっては、今後、中国当局にもフライトプランを提出する可能性があるという。

(ロイター)11/25

<http://jp.reuters.com/article/topNews/idJPTYE9AO05B20131125>

(NHK ニュース)11/25

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20131125/k10013325411000.html>

(WSJ)11/25

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303735804579219571712905020.html>

## 新千歳空港、LCC 利用者数 200 万人突破

国土交通省新千歳空港事務所は、新千歳空港発着の国内格安航空会社(LCC)の利用者数が累計200万人を突破したと発表した。初就航から1年1カ月となる今年4月に100万人を突破したLCCは、若者などの新規需要を掘り起こして順調に利用者数を積み上げた。毎日新聞が報じた。

新千歳空港事務所によると、LCC利用者数は先月末で累計195万人。毎月10万人以上の利用があり、今月15日ごろに200万人を突破したことが確実となった。

新千歳のLCCは2012年3月にピーチ・アビエーションの関西線が初就航。その後もジェットスター・ジャパンやエアアジア・ジャパンが就航し、成田や中部に路線を拡大してきた。

エアアジアは経営難から今年10月に休止したが、バニラ・エアに改称し来年1月から再開する。

(毎日新聞)11/25

<http://mainichi.jp/area/hokkaido/news/20131125hog00m040001000c.html>

## 全日空、那覇空港 LCC ターミナル拡張を計画、国際線に対応

全日空は那覇空港の貨物上屋内で運営するLCCターミナルを拡張、国際線にも対応できるようにする計画を進めていることがわかった。来年2月に拡張部分のオープンを目指す。計画では現在の約3,000㎡から約5,000㎡へ1.7倍程度に拡大する。ピーチ・アビエーションが那覇空港を第2拠点として活用、同空港からの国際線展開を計画しており、受け入れ施設の拡大が必要と判断した。日刊航空が報じた。

2012年10月18日にオープンした那覇空港のLCCターミナルは、ANAが借り受けている貨物上屋を旅客用に改装したもの。全日空では、同貨物上屋内でLCCターミナルに隣接する部分約2,000㎡を新たに旅客施設に転用、改装する。拡張部分は、国際線の出入国審査場や搭乗ラウンジなどとして使用する計画だ。すでに10月末から改装工事に着手、1月中にも完成させ、2月の供用開始を目指している。また、駐機スポットは現在使用している1スポット(64番)のほかに、

増便に向けて計 3 スポット(63~65 番)を使うことを計画している。

那覇空港では来年 2 月 17 日に新国際線ターミナルがオープンする予定で、国際線旅客便は新ターミナルで発着することになる。しかし、ピーチは、新国際線ターミナルには入居せず、施設利用コストなどを低く抑えられるLCCターミナルで発着したい考えだ。

(日刊航空)11/26

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>

### 佐賀県知事、佐賀空港、国際線専用施設、12 月 18 日運用開始

古川康佐賀県知事は 25 日、11 月定例県議会の開会にあたり、有明佐賀空港の国際線施設運用開始について来月 18 日からの運用開始を以下のように説明した。

「有明佐賀空港については、国際定期便の就航に必要な税関、出入国管理、検疫などのCIQ専用施設を備えた国際線専用施設の運用を、来月 18 日の上海便から始めることとなった。さらに、来月 20 日からは、韓国のLCCティーウェイ航空によるソウル便が週 3 往復で就航することとなっている。」

(日刊航空)11/26

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>

### アジアナ航空、山口宇部空港、初の国際線連続チャーター

山口県は 22 日、アジアナ航空が山口宇部空港初となる国際線連続チャーター便を運航すると発表した。年明けの 2014 年 1 月 10 日から 2 月 2 日の期間(水、金、日)の週 3 便 11 往復する。いずれも韓国からのインバウンドツアーでの利用となる。これにより訪日観光客 1400 人から 1600 人が見込まれる。

山口県や山口宇部空港利用促進振興会によるエアポートセールスを行っていた。

(山口県プレスリリース)11/22

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/201311/026535.html>

(日刊航空)11/25

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>

## インド外国投資促進委員会、シンガポール航空とタタ・サンズ、新航空会社設立を許可

(WSJによると)

シンガポール航空は 25 日、インドの複合企業タタ・グループを率いるタタ・サンズと同国内で合併の航空会社を立ち上げる計画についてインドの外国投資促進委員会(FIPB)がこれを許可したと明らかにした。

シンガポール航空は 9 月にタタ・サンズとインド国内でフルサービスの航空会社を立ち上げることで合意していた。合併の航空会社にはタタが 51%、シンガポール航空が 49%、それぞれ出資する。

(WSJ)11/25

<http://jp.wsj.com/article/SB10001424052702303735804579219180153679844.html>

## ブラジル、2つの主要国際空港民営化、空港運営権売却

ブラジルの2つの主要国際空港の民営化に向けた空港運営権売却入札で、国内外の民間企業グループが2空港合わせて約208億リアル(90億ドル)で落札した。入札の結果、民営化されるのはリオデジャネイロのガレオン国際空港とベロオリゾンテのコンフィンス国際空港。両市はともに2014年W杯の開催地。

ロイターによると、ガレオン国際空港については、ブラジルの複合企業オデブレヒトとシンガポールのチャンギ空港グループが190億リアルで運営権を落札。今後25年間で57億リアルを投じ、空港の改修と拡張を行う計画だ。

コンフィンス国際空港については、ブラジルの地下鉄・高速道路運営会社コンセッソンエス・ロドビタリア(CCR)とチューリヒおよびミュンヘンの空港運営会社が運営権を18億2000万リアルで落札。今後30年間で約35億リアルを空港拡張などに充てる。

(ロイター)11/25

<http://jp.reuters.com/article/worldNews/idJPTYE9A003H20131125>

FAA、GE 製エンジン搭載「ボーイング 787・ボーイング 747-8」、近く安全指令へ

(bloomberg によると)

米連邦航空局 (FAA) は米ゼネラル・エレクトリック (GE) 製エンジンを搭載した米ボーイング の最新鋭旅客機「787」型機 (ドリームライナー) とジャンボ機「747-8」を使用している航空会社に対し、積乱雲の近くの飛行を避けるよう命じる見込みだ。一部航空機で見られた氷結に対応する。FAA の 25 日の説明によると、米航空会社が登録した機体の中でこの安全指令の対象となるのは 14 機。ボーイングは 23 日、氷結で推進力が低下する恐れがあるとして、リスク低減のため積乱雲から 50 海里以内の飛行を避けるよう指示していた。指令は今週中に発表される見込み。

(bloomberg) 11/26

<http://www.bloomberg.co.jp/news/123-MWU9H76JTSGJ01.html>